低圧で Zn を蒸溜する場合の蒸発面の表面温度と蒸発速度，熱計算，凝着等について述べる。

1—18.　α Brass 単結晶の低温燒鈍について (15) 和田次郎，○中村健吾。70/30 Brass 単結晶を強圧延し，低温で燒鈍した時のラウエ斑点の変化を調べた。尙多結晶 70/30 Brass での低温燒鈍硬化についてもふれる。

1—19.　冷間圧延をした純銅及びりん青銅の板に対する低温燒鈍の影響 (15) 村川絜。冷間圧延をした純銅及び Sn＝10% のりん青銅の板に対する低温燒鈍の効果についての実験結果及び再結晶直前の様子について述べる。

1—20.　Ni_3Mn に於ける磁気余効と匍匐の関係 (15) 田岡忠美。Ni_3Mn の規則格子生成の初期に於ける異常磁気余効果と匍匐の相似性と相関性についての実験。

第2日　9 月 26 日（金）9.00～12.00

土，音　響

1—21.　ローラーによる土の締固めの模型実験（第1報） (15) 最上武雄，○久野悟郎。模型ローラーで土を締固め，その間の土圧，及沈下を測り，それが土の種類，含水量，及び盛土厚によりどのように変るかを観察した。

1—22.　土の振動実験（第4報） (10) 最上武雄，○久保浩一。振動をあたえられた乾燥砂の密度及剪断強度はあたえた振動の加速度によりきまり，加速度の増大と共に剪断強度は急激に減小する。

1—23.　三多摩地方の土質調査について (15) 最上武雄。三多摩地方の各地で土質調査を行つた結果，土のもつ性質に地域別の特長があることが或程度みとめられた。

1—24.　騒音の周波数分析 (15) 佐藤孝二，○松浦尙。騒音を分析する方法と，造船所，工場等の騒音を分析した結果について述べる。

1—25.　騒音の振巾分布について (15) ○五十嵐寿一，荒井昌昭。騒音の振巾分布を測定し，騒音の種類による差異を調べる。

1—26.　吸音材の音響インピーダンスの測定 (15) ○子安勝。種々の吸音材の音響インピーダンスを測定した結果，及び吸音率との関係について述べる。

13.00～

流　体　力　学

1—27.　有限長さのくさびを過ぎる音に近い流れ (15) 今井功。くさびを過ぎる高速気流を WKB 近似で研究する。特に，くさびの抵抗が頂角とマツハ数によつて変化する有様を調べる。

1—28.　円柱を過ぎる Viscous shear flow II. Oseen の近似 (15) 川口光年。shear がある粘性流の中に円柱がおかれた時の流れのもようや円柱に働く力を Oseen の近似でとり扱い，先に得た Stokes の近似解と比べる。

1—29.　2，3 の模型の流線写真について (10) ○小黒晴夫，井内松三郎。円柱剝離・低 R 数円柱・平板等について流線写真をとつたのでまとめて報告する。

1—30.　平板にそう層流境界層の実験 (10) 小黒晴夫。実験の条件を改良して得た結果を述べる。

1—31.　非定常層流境界層方程式の解についての注意 (15) 辻広。非定常運動をする絶縁された平板上の圧縮性層流境界層の一般解の吟味を行う。

1—32.　特性曲線法による一次元非定常水流の研究 (15) 内田茂男。断面積や勾配が広範囲に変る様な水路における非定常流を解析する目的で，特性曲線の理論を適用した一つの解法を導く。

1—33.　洪水波の実験 (15) 河田三治，○林泰造。任意の勾配を有する水路の中に，任意の波頂曲率を有する洪水波を流して，その波高低減の法則を求め，理論との比較を行つたものである。

1—34.　海風の構造 (15) 河田三治。海浜で海からの風は海面という一つの表面条件から海浜という，他の表面条件にうつる場所を流れる気流であることを実験から論じた。

1—35.　超音速翼型の造波抵抗計算法 (15) 河村龍馬，○銭福星。Busemann 係数を考慮に入れて解析的に超音速翼型の造波抵抗を計算し，実験結果，J. Ackeret の線型解及び特性曲線，衝撃波の式を使つた厳密解と比較した。

1—36.　湿性衝撃波の実験 (15) 河田三治，河村龍馬，○田中昭生。ラバール管に生じる湿性衝撃波に就いて空気の乾燥及加熱に依る影響を実験的に吟味して見た。

This document is provided by JAXA.